

すべては子どもたちの笑顔のために



東信教育事務所だより

「響」

No.4



〒384-0006 小諸市与良町 6-5-5
TEL.0267-31-0250 (代)
FAX.0267-31-0140
http://www.pref.nagano.lg.jp/
toshinkyu/index.html
令和元年(2019年)9月4日(水)発行

2学期のスタート！
学級づくり特集号！

特集「2学期をスタートした今だから」

つながり合える学級に

～縦糸と横糸を紡ぐ～

—No.4の内容—

学級づくり特集号！

- ◆特集「2学期をスタートした今だから」
「つながり合える学級に」
- ◆シリーズ
「ユニバーサルデザイン化の視点から」
- ◆私の学級づくりから
- ◆舎窓から
- ◆生涯学習課より

夏休みが終わり、子どもたち一人一人が気持ちを新たにし、学校生活を再出発していることと思います。先生方もきっと、そうでしょう。

そこで、学校生活の中で多くを過ごす「学級」を、互いに認め合い、高め合う集団に成長させるためにはどうしたらよいかを考えてみます。

【教師と子どもとの間の“縦糸”】

縦糸を紡ぐためには、教師が子ども全員から「自分は大切にされている」と思われるような接し方が理想です。学級全体をひとくくりにはせず、一人一人とどう関わるのかを大切にしてください。声掛けを例に考えてみます。

①「よかったね、すごいね。」という言葉だけでなく、何がよかったのか、何がすごいのかということがわかるようにほめることが大切です。



端から端まで、ていねいに雑巾がけをすることができていましたね。

②子どもの行為のみをほめるのではなく、教師の率直な思いや感動を伝えていくことも大切です。

低学年の子たちにやさしく接しているみんなのにこやかな顔を見ていると、先生も温かい気持ちになりました。



なお、声を掛けるには「子どもをみる」ことが必要にもなります。

【子ども同士をつなぐ“横糸”】

縦糸に比べ、紡ぐのに難しさを感じる横糸。そこで、子どもが協力して少しがんばれば到達できるような目標に向かわせてみてはどうでしょうか。目標は、教師が一方的に与えるのではなく、子ども自身が取り組みたくなるように設定をすることがポイントです。



例えば、子どもたちと共につくった学級目標と関連させながら、日々の生活や学校行事などの目標を立て、活動し、振り返る実践を積み重ねてみましょう。振り返りの場面（毎日の短学活、行事後の学級会など）では、自分だけでなく友達の良い姿も捉えさせ、それを学級全員で共有することも大切です。

友達のおかげで自分のよさに気付くことができた経験やみんなで取り組んだからこそ味わうことができた喜びは、横糸を紡ぎます。

縦糸と横糸を紡ぎ、つながることで、学級は互いに認め合い、高め合う集団に成長していきます。



日常の積み重ねや、運動会、音楽会、そして文化祭といった行事を通してつながり合える学級が育まれると、私もうれしいわ。



特集

「ユニバーサルデザイン化の視点から」

教室環境は、どのような視点で整えていったらよいのでしょうか？



教室環境を再確認し、整えることで、児童生徒の「安心」「快適」な学校生活につながるのですね。



ユニバーサルデザイン化の視点を取り入れた
教室の環境づくり

子どもたちにとって安心して快適に過ごすことができ、授業に集中できる教室の環境づくりを紹介します。新学期のこの時期に新たに再確認してみましょう。

視点① 「安心」

□整理整頓の仕方

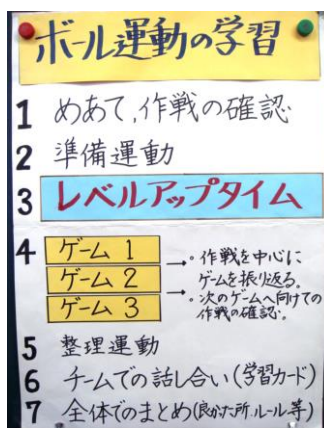
- ・「何を」「どこに」「どのように」置けばよいかを誰が見てもわかるように写真を掲示するなど、視覚的な工夫・配慮をするとよいでしょう。

□活動の見通し

- ・教室に書かれている時間割が「いつ」「どこで」「何を」「どのように」するのか、見えると安心につながります。
- ・授業の流れを示すと子どもが見通しをもつことができ、安心して活動に取り組めるでしょう。

□視覚支援

- ・先生が言葉のみで伝えるだけでなく、実物投影機やプロジェクターなどのICT機器を活用して、子どもたちに提示すると、よりわかりやすかったり、活動の見通しがもちやすかったりします。すぐに使える状況にしておきたいですね。



例 活動の見通し

視点② 「快適」

□刺激量の調整

- ・声の大きさなどの聴覚的な刺激はコントロールが難しいですが、音への意識を高めて周りに配慮できるよう、視覚的に示すとよいでしょう。
- ・学習の意識が散漫にならないように、掲示場所を変更したりカーテンを使用したりすると、視覚的な刺激のコントロールができるでしょう。



例 見えない声を視覚化

□座席の工夫

- ・黒板の文字が見えにくい、先生の話が聞き取りにくい、様々な刺激に反応しやすいなど、配慮の必要な子どもたちの座席の位置を工夫するとよいでしょう。
- ・利き手が異なる子どもたちが隣り合って座る場合、字を書く時などに肘が当たり、お互いに書きにくさを感じている場合もあります。困難さがあるか、子どもに聞いてみるとよいでしょう。
- ・実際に先生が子どもの席に座り、目線を合わせることも大切です。板書や資料提示の位置などのヒントも得られるでしょう。

※「合理的配慮実践事例集」

「今こそ、通常の学級における特別支援教育の充実を」参照
長野県教育委員会HPでもダウンロードできます。

私の学級
づくりから

一人一人を支え合える学級づくり～グループ・席決めの一工夫～

「くじ」や「抽選」などですべて自由に座席を配置、グループを決める。

○よさ

△課題

○どの子どもにも公平であり、偶然性による人間関係づくりが可能である。
○かかわりが少ない子ども同士が同じグループになる可能性があり、新たな関係づくりができる。

△偶然性があるため、配慮を要する子ども同士のかかわりに気をつける。
△新たな人間関係づくりが可能になるが、学級の雰囲気や子どもたちの実態をしっかりとらえておく必要がある。

班長は互選で決め、「くじ」等でグループと座席を決めて、班長がグループを選ぶ。

○子どもたちの中にあるリーダーとしての芽を大切にできる。
○クラスみんなで班長を決めることで、クラスみんなに選ばれたという自覚と責任をもって班長に取り組める。

△くじ等で偶然選ばれたメンバーが班員なので、班長の配置を考える必要がある。
△班長として選ばれた子どものリーダーとしての育ちに見通しをもつことが必要である。

班長を互選で決め、班長が班員を選び、グループと座席を決める。

○上記の2点は同様。
○班長となった子どもたちが班員を選ぶことで、班長が自分で選んだ班員に対して責任をもってかかわれる。逆に班員もクラスみんなで選んだ班長の下で、班活動に取り組むことができる。

△班員を選出する際の班長会のもち方には配慮が必要である。班長となった子どもたちが、クラスの子どものことをどうとらえて選出するか、担任はその場で十分に配慮したい。

子どもたちの実態に応じて、グループ・席決めを行い、学級の人間関係づくりを進めていきたいですね。校内の先生方の取組も紹介し合ってみてもよいですね。
(文責：学校教育課 羽生 篤史)

連載

「舎窓から」

どんな願いが込められているか想像して

私は学校訪問で授業参観をさせていただく際に、いつも見るものがあります。それは学級目標です。学級目標には、そのクラスの個性が表れていて、掲示物も工夫されていることが多いからです。

学級目標と言えば、以前担任していたある中1のクラスを思い出します。その学校では4月に宿泊行事があり、その中でクラスごとに学級目標を決める時間が設定されていました。他にも多くの活動があったにも関わらず、クラスが一番盛り上がった時間が学級目標を決める時間でした。自分のクラスへの願いを言葉に表そうと、たくさんの意見が飛び交い、一語一句にこだわる子どもたちの姿がありました。最終的に、決まった学級目標が「新世界～友達王におれらはなる！～」でした。この学級目標には、出発にあたっての子どもたちの決意の姿とゴールを見すえて自分たちの願う姿が見えてきます。その後も、学級目標に立ち返り、みんなで何度も話し合い、これから何を大切にしていこうか考えたことを思い出します。

私は授業参観で学級目標を見ながら、「どんな願いが込められているのだろう」と想像しています。そして、学級目標につながる子どもの姿が授業の中で見られることがたくさんあり、そんな子どもとの出会いをいつも楽しみにしています。
(文責：学校教育課 清水 あかね)

各校の人権教育にお役立てください

人権教育指導資料集（赤本）がダウンロードできます！

人権教育指導資料集 長野県

検索

- ・人権教育の『身につけたい力』ってなんだろう？
- ・参考になる指導案がほしいな



各校に1冊ずつ、配布もされています。



長野県教育委員会 心の支援課のホームページには、赤本のPDFのほか、人権教育に役立つ情報がたくさん掲載されています！

社会人権教育のホームページでは、

- ・人権つうしん
 - ・人権教育リーフレット『いま ここから』
 - ・人権教育に関わる講師の人材情報リスト『地域人権ネット』
- などを紹介しています。



学校人権教育のホームページでは、

- ・人権教育だより
 - ・人権教育指導事例集『一緒に いこうよ』
 - ・小学校から高校、さらに、社会人権教育にも活用できる教材
 - ・人権ポスター入選作品
- などを紹介しています。

生涯学習課

社会教育

【佐久地区・上小社会教育委員連絡協議会合同研修会】

8月2日に小諸市役所において【佐久地区・上小社会教育委員連絡協議会合同研修会】が開催されました。

この会は今回で4回目となり60名参加がありました。

ちなみに東信地区15市町村には教育委員会から委嘱された社会教育委員の方が115名います。「社会教育に関する諸計画の立案」「教育委員会の諮問に応じ、意見を述べる」等さまざまな活動をされています。

合同研修会では、長野県生涯学習推進センター所長の木下巨一さんをお招きして「地域づくりの風土を支える社会教育」と題して講演をしていただきました。また講演の中では、小グループで意見交換をし、講演の内容を共有する時間も作られました。「社会教育委員は何をやらなければいけないかという根本の話を伺うことができました」「日本の未来のために社会教育は青少年の年代から必要ということが分かりました」といった感想が出されました。年1回の佐久地区・上小地区の合同研修会の有意義さを事務局として感じる事ができました。

